体育科学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
学生の確保（人）			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—))	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	3年次編入学	— ※ — (—)	9 ※ — (14)	3 ※ 1 (5)	9 ※ — (14)	3 ※ 1 (5)	5 ※ 1 (10)	4 ※ — (9)	1 ※ 1 (1)

	博士課程修了		論文博士	博士課程修士
学位授与数（人）	修了年次定員	修了者数	授与数	授与数
	10 (10)	11 (5)	— (3)	12 (10)

	論文・著書発表数	学会発表数	受賞・表彰等
学生の研究活動（件）	208 (65)	227 (115)	3 (0)

		教員	企業	公務員	研究員（学術振興会）	その他
学生の進路（人）	修了者	1 (1)	— (1)	1 (—)	— (1)	9 (2)
	退学者	4 (5)	— (1)	4 (1)	— (—)	4 (4)

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は，中間評価の合格者数を示す。
・（ ）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　体育科学研究科の活動

(1) 21世紀COEプログラム研究拠点形成補助金を獲得し，その具体的研究活動を開始した。拠点形成の一環として外国人研究者を招聘してセミナーを実施した。

(2) 研究業績展示を行ない，教官・学生そして本学に来訪した研究者および非常勤講師の業績等も展示したことは，学系全体の教官・学生の研究意欲を向上させ内外からも高い評価を受けた。

(3) 教育・研究業績に応じた予算配分は一部の教官からの批判もあったが，全体として成果評価主義の徹底がはかられた。

(4) 院生と教官の懇親会を開催したことは学生の大学生活の改善，および学位取得意欲を高めることに貢献した。

2　教員の教育業績評価の状況

教育業績として学位取得を最重要評価の一つとし，毎月研究報告会I（中間評価への公開発表）およびII（予備審査会への公開発表）を第４水曜日に開催した。研究報告会を通じて，中間評価（修士論文提出），予備審査会を標準的な年次で進行させるよう努力した。

教員の国内外での学会発表，論文，および著書発表等は非常に活発であった。また，科学研究費・受託研究・奨学寄付金等の外部研究費は前年度を凌駕した。

3　自己評価と課題

(1) 13年度に決定された教官の研究科担当の継続・非継続審査を実施することになっていたが，その客観的基準について疑義があり実行されなかった。教授，助教授，講師の身分と研究指導と授業担当の立場を考慮した審査基準を作成することが重要である。

(2) 14年度に計画した教育（学位取得者数），研究（論文数，21世紀COEプログラム取得等）は，ほぼ達成することができた。今後，本研究科がより魅力的であるためにCOEプログラムによる拠点形成，そして研究成果を向上させるための創造的方策，さらには独立行政法人化に向けての研究科の再編など体制の整備が必要である。